

【講評文】 8月9日（火） 3校目

## 「起承転転転」 加茂高校

コミカルな明るいテンポの音楽に乗せて、朝の忙しい風景を表現した冒頭のシーンは、観客の意識を一気に舞台に引き込むことに成功したと思います。また、個性豊かな登場人物がたくさん出てきましたが、それぞれのキャラを上手く演じていたため、観客は展開を楽しみながら物語に入り込むことができました。

ストーリー全体のつながり、動き、セリフの言い回しに少し不自然さがあり、それが解消されるともっとよくなるのではないかという意見がありました。役同士の関係性がリアルに、かつ丁寧に表現されていました。タイトルが示すように、舞台の幕が降りた後も物語が続いていくのだと、観終わった後もそれぞれに想像力がかき立てられ、余韻に浸ることができました。その意味でもたいへん見ごたえがありました。

BGMの適度な音の大きさを含め、音響と照明のタイミングが見事に調和していたことで、特に冒頭のシーンは2次元の世界を見ているような不思議な気持ちになりました。

「帰宅部」の部室が「サッカー部」の部室に転換したことが、壁の「汚し」の有無によって視覚的に分かりやすく表現されているなど、工夫が見られました。

場面転換については、もう少し「パフォーマンス」としての観点から、観客に見せる転換にするともっと良かったのではないかという意見や、装置の配置が上手もしくは下手に寄っていたため、生徒会の威圧感を表現するためには、舞台の中央をもう少し活用しても良かったのではないかという意見が出ましたが、BGMと照明を効果的に使った場面転換は観客を飽きさせることがなく、とても良いアイデアだったと思います。

演出においては、上記したように2次元の世界を見ているような舞台づくりが見事になされていました。「起承転転転」というタイトルが意味するように、物語がこの後もさらに続いていく感じが最後まで観客を惹きつけることにつながっていてとてもよかったと思います。

この物語を通して伝えたいメッセージに関して、パンフレットに「本当の正しさとは」という記載がありましたが、何をもち「正しさ」とするか、そもそも「正しい」とはどういうことか。時代背景や自分の立ち位置、信じるものによって、それぞれ違った見方ができるこのテーマについて深く考えるきっかけになりました。

加茂高校のみなさん、上演お疲れさまでした。

(文責 長良高校 3年 スア ひま 2年 そら )